

開催日：平成 30 年 7 月 5 日（木）曇り	開催テーマ：鎌倉幕府三遷と座学
開催場所：小町・雪ノ下	記入者：山腰 策次郎
参加人数：寺社を巡る会員 男 29 名 女 4 名 計 33 名 ビジター 男 0 名 女 0 名 計 0 名 合計 33 名	
<p>実施内容</p> <p>コース きらら鎌倉（集合）～宇都宮辻子幕府跡～若宮大路幕府跡～大蔵幕府跡～勝長寿院跡～婦人子供会館（昼食～座学～解散）</p> <p>心配されていた昨日からの風雨も治まり、いつもの顔ぶれと少し異なった 2 班体制で探訪がスタートした。今回のテーマは、歴代の鎌倉幕府が置かれていた跡地を訪ねるもので、午後はそれに因んで座学が予定された。</p> <p>最初に訪れたのは宇都宮辻子幕府跡で、大蔵幕府に続いて幕府が置かれた所である。それを示す石碑は気を付けなければ見過ごすような閑静な住宅地の片隅に建っていた。嘉禄元年(1225)北条政子の死を機に、三代執権泰時が大蔵からこの地に幕府を移し、嘉禎二年(1236)までの 11 年間政治の中心となった。この辺りに下野の有力御家人宇都宮一族の館があったことからそう呼ばれた。現在はその跡地に宇都宮稲荷神社が鎮座し、その面影を残している。</p> <p>次に訪れたのは宇都宮辻子幕府跡のすぐ近くに位置する若宮大路幕府跡。嘉禎二年四代将軍藤原頼経の時代にこの地に移され、幕府滅亡の元弘三年(1333)までの 97 年間政治の中心地となった。名前の由来は、八幡宮側の横大路に面していたからとする説や、宇都宮辻子幕府と同じ場所にあったが出入口が若宮大路に面していたからとする説などがある。</p> <p>清泉小学校敷地の角に大蔵幕府跡地の石碑が立っている。治承四年(1180)鎌倉入りした頼朝は、ここ大蔵の地に四方に門を持つ寝殿造の屋敷を建造、鎌倉幕府の始まりである。その後頼朝は全国統一を果たし、侍所、公文所、問注所、政所などを次々に整備、武家政治の中心地となっていく。大蔵幕府は、当時最も重要な街道であった金沢道に面して造られ、宇都宮辻子に幕府を移すまでの 45 年間ここが政治の中心地となった。</p> <p>最後に訪れたのが、頼朝が建立した三大寺院の一つ勝長寿院跡。滑川に架かる大御堂橋を渡り路地を上がっていくと道端にその石碑が立っていた。この寺院は、平治の乱で敗れ殺害された父義朝と鎌田政清の菩提を弔うため建立されたが、現在は石碑と両者の供養塔が残るのみである。また源氏の菩提寺としての性格が強く、三代将軍実朝もこの寺院の傍らに、また政子もこの地に葬られたといわれている。義経の妾・静御前が、ここで病に臥せっていた頼朝の娘・大姫を慰めるため舞を舞ったことはよく知られている。</p> <p>昼食は婦人子供会館で、その合間に玄人はだしの落語家・笑風亭かん治さん(鎌倉ガイド協会の青木氏)が落語を一席。午後からはその青木さんが講師を務め、今回訪ねた史跡のおさらいや裏話などを講義して頂いた。</p> <p>今回の訪問先は、すべて跡地で往時を偲ぶものは殆どなく、見るものは石碑のみというこれまでにない探訪であったが、ガイドの説明を聞きながら約 800 年前の鎌倉に思いをはせるという貴重な一日でもあった。</p>	
参加者の状況・戻り梅雨の最中、幸運にも雨に会わず。高齢者集団にとって、半日歩きは何よりの元気薬、皆さん最後まで溍漉とし、楽しそうであった。	
<p>次回の予定</p> <p>8 月 2 日（木）座学 12：30～ 金沢地区センター2F 大会議室</p>	